道徳科の評価等について　～旭川市立東五条小学校～

東五条スタイル「道徳科」

1　本校における「道徳科」の学習～東五条スタイル

（1）本校の道徳科の学習の基本的な学習指導過程

道徳科は、計画的、発展的な指導によって、教育活動全体において培われた道徳性を補充、深化、統合し、道徳性の自覚を深め、道徳的実践力を育成することをねらいとしている。

道徳科の目標を達成したり、児童に資質・能力を身に付けさせたりするために、様々な理論による学習指導過程が考えられているが、本校では、これまで「価値の主体的な自覚を促す学習指導過程」の考え方を参考に、一人一人の児童が価値を内面的に自覚し、自らが道徳的実践力を身に付けていく「基本的な学習指導過程」を設定し、実践してきた。

新学習指導要領において、道徳科の学習が「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」であると示された。このことを受け、多様な指導方法や学習指導過程のつながり等の工夫を行いながら、児童が把握した道徳的価値について、今までの自分を振り返らせ、自分自身の問題として主体的に深めたり広げたりすることができるよう、これまでの「基本的な学習指導過程」を継続していくこととした。

本校における基本的な学習指導過程の各段階は、次の通りである。

基本的な学習指導過程

道徳的価値への方向付け

道徳科の導入場面において、本時でねらいとする道徳的価値に対する児童の興味・関心を高め、本時の「主題」を設定して一人一人の学習意欲を喚起するとともに意識をねらいとする道徳的価値へ方向付けする段階。

道徳的価値の追求・把握

道徳科の展開前半場面において、「主題」に向かって資料中の人々の生き方や事象を追求することによって、道徳的価値を的確に把握させる段階。

道徳的価値の内面化

道徳科の展開後半場面において、資料から離れ、把握した道徳的価値について、今までの自分を振り返らせ、自分自身の問題として深めたり広げたりすることによって、道徳的価値を内面化させる段階。

道徳的実践への意欲化

道徳科の学習の終末場面において、ねらいとする道徳的価値の意義を確認させ、道徳的実践への意欲を高めていく段階。

このように、教科の流れに近い基本的な学習指導過程を設定して授業を行うことで、児童の学習経験を積み重ねることができる。

（２）基本的な学習指導過程の詳細

	指導の段階とねらい	指導上の留意点
道徳的価値への方向付け	本時でねらいとする道徳的価値に対する児童の興味・関心を高め、本時の「主題」を設定して一人一人の学習意欲を喚起するとともに意識をねらいとする道徳的価値へ方向付けする段階。 「今日はこんなことを考えていくんだな。」 「どうして～なのだろう。」 「～について考えてみたいな。」	○学級の雰囲気づくりをする。 ○本時はこんなことを学習するという意識を一人一人にもたせる。 ・児童の実態を的確にとらえて想起させる。 ・児童が自分とのかかわりを感じる日常の生活経験、体験、実態などを基に興味・関心をもたせる。 ・よい事例や問題のある事例を取り上げ、関心をもたせる。 ・そのときの感想・心情や判断・行為のよさや不十分さを掘り起こし問題意識をもたせる。 ○資料への興味付けをする。 ・資料への理解を助け、興味・関心、問題意識をもたせる。 ・歴史的背景や登場人物の説明をする。
道徳的価値の追求・把握	「主題」に向かって、資料中の人々の生き方や事象を追求することによって、道徳的価値を的確に把握させる段階。 「すごい。」「どうしてかな。」 「わたしは～と思う。」 「ぼくと同じ考えだ。」 「そういう考え方もあるんだな。」	○主人公の状況が把握しやすいように資料を提示する。 ○問題場面における主人公の生き方について話し合わせ、主人公についての多様な見方・考え方・感じ方からねらいとする価値を追求させる。 ○主人公の道徳的な見方・考え方・感じ方・行為から、ねらいとする道徳的価値を把握させる。 ○内面化の基盤となる考えを明確にする。
道徳的価値の内面化	資料から離れ、把握した道徳的価値について、今までの自分を振り返らせ、自分自身の問題として深めたり広げたりすることによって、道徳的価値を内面化させる段階。 「～のとき～できなかった。（できた。）」「～な気持ちでそのようにしてしまった。」 「今考えると、自分が～だったと思う。」 「自分では気付かなかったけれど、こういう意味があったのか。」 「わたしも同じことがあったよ。」「考えがはっきりした。」	○資料から離れ、自分自身に目を向けさせ、道徳的価値の内面化を図る。 ・ねらいとする価値について、これまでの自分と比べる。（どのようなとき、どのようにしたか。なぜそうしたのか。今そうしてしまった自分をどう思うのか。） ・できた自分、不十分な自分、できなかった自分を見つめさせ、自分の見方や考え方、行動したことについて、これでよかったのか振り返らせる。 ・そんな気持ちは誰にでもあるのか、みんなにもあるのかを考えさせ、友達の生き方、見方・考え方のよさに気付く。
道徳的実践への意欲化	ねらいとする道徳的価値の意義を確認させ、道徳的実践への意欲を高めていく段階。	○道徳的価値やねらいを児童一人一人が自分なりに納得したり、自分の今後の課題として実践への意欲を醸成したりできるようにする。 「よかった。」「うれしかった。」 「～は大切なんだと改めて分かった。」 「元気が出てきた。」「気持ちがさわやかになった。」 「これからは～したい。」

（３）日常の生活と関連付けた導入の工夫

道徳科の導入は、その時間でねらいとする道徳的価値へ方向付ける段階である。しかし、ともすると価値への方向付けが教師の押し付けになっていないかという反省があった。

そこで、児童の実態や生活経験、学習の既習体験をできるだけ生かした指導を工夫し、児童が自分とのかかわりを意識し、主題に対する興味・関心、問題意識を高めることができるようにすることを大切にしている。また、各教科等における体験的な活動と関連させた導入の工夫も考えられる。

その時間に学習する内容項目にかかわって、自分とのかかわりを感じられる事象
〇各教科等の既習事項、体験
〇日常の生活や活動の実態
〇質問紙等による事前の意識、実態把握

〈日常の生活と関連付けた導入の工夫〉
〇児童が自分とのかかわりを意識して主題に対する興味・関心、問題意識を高めることができるように、日常の生活体験、各教科等における事前の体験的な学習等から話題や場面などを提示する。
〇体験を具体的に想起できるための提示の仕方を工夫する。
・視聴覚資料、実物、調査結果、体験の再現など
〇体験を共通の話題とすることにより、主題に対する興味・関心や問題意識を掘り起こし、価値を方向付ける。

（４）心に響く資料の活用、提示の工夫

道徳科の学習にとって最も適切な資料は、「道徳的価値の追求・把握」の段階において、ねらいとする道徳的価値を的確に把握させることのできる「資料」である。

道徳科の学習において資料は、児童が多様に感じ、考えを深め、学び合いながら道徳的価値を意欲的に追求し、的確に把握したり、内面的な自覚を深めたりするための手掛かりとして、児童の実態に即したものであることが重要である。また、児童にとって共感できる資料、意欲が高まる資料、思いが表現しやすい資料、生活を振り返りやすい資料、理解しやすい資料であることが大切である。

児童にとって心に響く読み物資料が有効であると考えられるが、多様な学習活動や児童の実態に即した学習を展開するためにも、体験的な資料などの開発や人的な活用にも努力していく必要がある。

児童にとって心に響く学習を展開するためには、学習指導過程の各段階において、より適した資料の選択、開発を行う必要がある。そのためには、地域素材・人材の活用は有効であると考えられる。なお、人的な資料を開発する場合は、授業のねらいからずれないような綿密な打合せが重要である。

指導の段階	有効と思われた資料例
道徳的価値への方向付け	・各教科等の体験的学習等を生かす資料(写真、ビデオ、表など) ・価値に対する実態を意識させる資料(アンケート結果、手紙、ビデオなど) 【地域素材・人材活用例】 ・盲学校の先生からの手紙
道徳的価値の追求・把握	・副読本等の読み物資料 ・人的、体験的な資料 ・構成的エンカウンターを生かした資料、体験 【地域素材・人材活用例】 ・「読み聞かせの会」の方の協力による資料提示 ・実感を伴った価値把握のための保護者の話 ・動物園の方との協同による資料提示と追求活動
道徳的価値の内面化	・道徳ノート ・「私たちの道徳」の記述欄 ・板書の工夫 ※「道徳的価値の内面化」については、２頁後ろに詳しく記載
道徳的実践への意欲化	・ゲストティーチャーによる説話 ・人材活用による手紙やビデオ　など 【地域素材・人材活用例】 ・消防士の体験を基にした説話 ・保護者からの手紙、話

（５）「道徳科」の学習における主題設定と資料分析

①道徳科の「主題」の設定

道徳科の「主題」とは、何をねらいとし、どのように資料（体験活動等を含む）を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものである。したがって、「主題」の構成とは、「ねらい」を設定し、それを達成するための「資料」を選定することである。

本校では、児童の実態に合った言葉で表現した「主題」を道徳的価値への方向付けの段階で提示することを基本としている。

児童にとっての「主題」とは、各教科における「課題」と同様に、その時間でどのようなことを学習するのかを把握するためのものである。児童が自分とのかかわりをもって主題を捉えることができるように、事前に実態を十分に把握した上で主題を構成する必要がある。

②資料分析とは

資料分析とは、選定した資料を通して、児童が心情を深めたり、多様な感じ方や考え方を学び合ったりしながら道徳的価値を的確に把握するために、資料をどのように有効に活用すべきかを吟味し、授業を構成するための手立てである。

資料分析を通して、教師は資料の中で児童自身の認識や行動と学習対象の間で差を生じさせたり、行為の諸結果への予測を促したり、疑問や問題点への追求を促したり、課題意識をもたせイメージをふくらませたりしながらねらいとする価値を追求し、価値を的確に把握させるための意図的な発問を設定することができる。本校では、資料分析を行った上で発問（中心発問・基本発問）を設定することを基本としている。

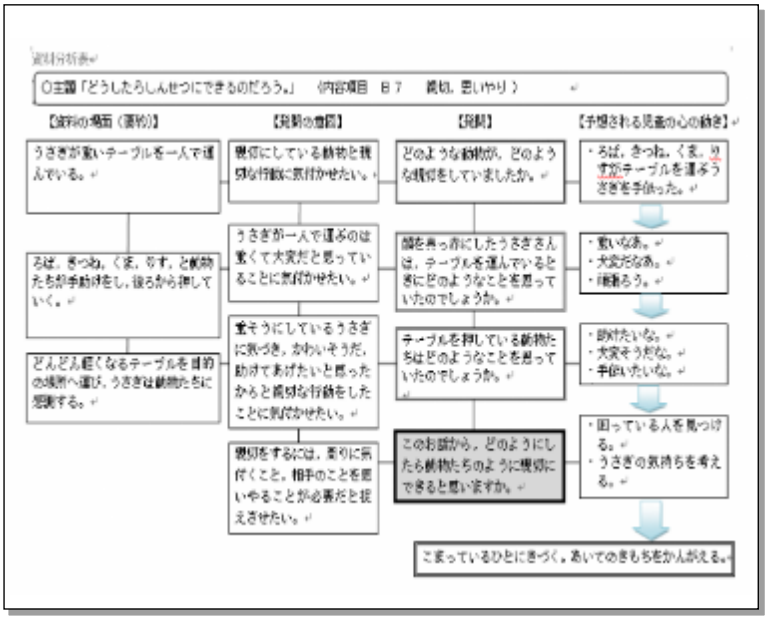
③資料分析の方法

資料分析は以下の手順で行うことが基本であるが、資料の内容等によって弾力的に行うことも重要である。

1、事前アンケートや長期的な見取り等を通して、ねらいとする価値にかかわる児童の実態を的確に把握する。
2、深く読み取り、内容を場面ごとにまとめる。
3、場面ごとに登場人物の言動、心の動きをおさえる。
（心の動きが分かるキーワードを探す。）
4、主人公の行為や気持ちを支えている中心的な価値や周辺価値を明確にする。
5、キーワードを手掛かりに価値の構造をまとめ、吟味する。
6、問題場面に対する児童の実態をおさえる。
7、価値をどのように扱い、どこまで追求するかを、ねらいや児童の実態から吟味する。
8、児童の心の動きを予想し、発問（中心発問・基本発問）を構成する。

④資料分析の形式

本校では、下図のような形式で資料分析を構造的に整理している。



○資料の場面
　ねらいとする価値にかかわる道徳的な心情や判断をどの表現から考えることができるのかを明らかにする。
○発問の意図
　ねらいとする価値に迫るために、児童の実態を踏まえ、どのような意図で発問するのかを明らかにする。
○発問
　発問の意図を基にし、児童の思考のつながりを考慮しながら発問構成を明らかにする。
○予想される児童の心の動き
　児童の心の動きをどう想定しているか明らかにする。

⑤資料分析によって設定する「発問」

資料分析によって設定する発問は、児童の思考や話合いを深め、ねらいとする道徳的価値に迫る上で大切な決め手になる。本校では、中心発問と基本発問を整理した上で発問構成している。

◎中心発問（主発問）
・「本時のねらい」と深くかかわっている発問
・最も登場人物に共感させ、登場人物に託して語らせることのできる発問
○基本発問
・授業を展開していく中でねらいを達成するために欠かせない発問（問題を意識させるもの、有効な価値を引き出させるもの、自己の在り方を見直すためのもの）

（６）道徳的価値の内面化

児童が、日常生活で道徳的実践力を進んで発揮し、よりよく生きようとするためには、資料を通して追求・把握した道徳的価値について、資料から離れて「今までの自分はどうであったのか」「なぜ、そうだったのか」など、じっくりと自己を見つめ直し、ねらいとする価値への自覚を深めることができるような指導を工夫することが重要である。

①価値の内面化

「価値の内面化」とは、中心資料を通して把握した価値を基に、資料から離れて自分の生活を振り返り、自分自身の問題として広げて考えることで、自己を見る目を深め、道徳的価値を自分自身のものとして自覚すること。

②内面化の手立て

〇価値について資料の状況だけではなく、自らの日常から広く振り返る状況や場面を見付け出し、そのときの自分について価値を照らし合わせて考えさせる。
〇学習した価値に対して、自分という人間はこれでよかったのかと内省させる。

価値の内面化を図る手立てとして、本校では以下の４点を意識しながら内面化を行わせることを基本としている。

１　資料の状況から自己の日常へ意識を転換させる
- 日常の姿を写真やビデオで提示することにより意識を転換させる
- 学級での共通体験など具体的場面を示し、他の状況を想起する手掛かりとさせる

２　自己の姿を想起させるための診断的評価を生かす
- 蓄積した「道徳ノート」の記述の活用
- 日常の学校生活や各教科等での体験の活用
- 価値にかかわる質問紙による調査の結果（座席表等）の活用

３　自己を見つめ直す「場」と「時間」を保障する
- 「道徳ノート」の工夫と活用
- 音楽を流すなど落ち着いた雰囲気づくり

４　内面化を促す視点を明確にする

【今までの自分を振り返る視点】

⑴どのようにしたのか？〈出来事を取り出す〉
⑵なぜ、そうしたのか？〈行為の背景を考える〉
⑶今、そうしてしまった自分をどう思うのか？
（こうなりたい　こうならできそう　こうなっていきたい）

〈価値を通して自己評価する〉

- 「道徳ノート」や「板書」の工夫による視点の明確化
- 机間指導のポイント

③内面化の段階での交流活動のイメージ

《内面化と交流活動の発達段階（案）》

	内面化の発達段階の姿	交流活動の発達段階の姿	
低学年	○資料の状況に類似した日常生活場面を想起できる状態	○全員の前で、途中で止められることなく、自分の考えを発表できる状態	低学年
	○資料の状況から離れ、日常生活から広く価値に関する場面を想起する段階	○発言に反応しながら聞き、教師のつなぎがある中で学級全体での交流ができる状態	
中学年	○想起した場面に対して自分のとった行動の理由について考えている段階	○発言に関連させた考えを伝え合いながら、教師のつなぎがある中で学級全体の交流ができる状態	中学年
高学年	○想起した場面での行動を改めて評価し、自分自身を客観視する段階	○自分達で互いに発言を求めながら、学級全体で自然な　考えの交流ができる状態	高学年

内面化の段階における　価値とのかかわらせ方と交流活動の在り方の明確化

④道徳的価値を内面化させる交流活動の工夫

内面化の段階では、主観に陥りがちな自らの考えを問い返したり、他の意見を聞いた上で再度自分を見つめ直したりする機会をもつことが効果的である。そこで、学んだ道徳的価値についてより具体的に内面化を図るための手立てとして、交流活動を重視している。

◆交流活動を行うことの意義

○自らの気付きや感じ取った思いを表出する（価値観の表出）

○自らの気付きや感じ取った思いを発表し合うことで他の感じ方や思いを知る（価値観の交流）

○気付きや感じ取った思いを発表し合い、認め合うことで互いを深め合っていく（価値観の共有）

◆価値の内面化を促す交流活動設定上の留意点

○少人数での交流活動を行うことの働きを明確にすること

○交流で図られる内面化の様相を明確にすること

○書くことによる自己を見つめ直すこととの関係や時間配分を明確にすること

○資料の特徴や価値内容に対する子どもたちの反応を明確にすること

（７）実践意欲を引き出す説話の工夫

説話は、基本的にねらいとする価値に関する児童たちの道徳的実践意欲を引き出すために行う。叱責や訓戒、行為の押し付けのために行うのではなく、感銘を与えたり、思考を深めたりすることのできるような説話をすることが重要である。

①教師による説話の意義

〇ねらいとする価値に対する考えを深めたり、整理させたりすることができる
〇短い時間にねらいとする価値に関する多くの情報を与えることができる
〇自らを語ることで、児童との信頼関係を深めたり、深い感銘を与えたりすることができる
〇道徳的実践に対する意欲を高めることができる

②教師による説話　具体化の視点

〇どのような効果をねらって説話するのか、説話のねらいや方針を決定する
〇内面化からのつながりや説話を始めるタイミング、説話後の手立てを決定する
〇どのような組立ての説話をするのか、説話の構成を決定する
〇どのような表現方法で説話するのか、説話の具体的な方法や道具の活用を決定する

③具体的な説話の方法

〇教師の体験談や願い
〇学級の出来事の紹介
〇新聞やテレビで取り上げられたニュースや話題
〇文学作品や映画などの粗筋
〇写真や本、歌の紹介
〇金言、名句の紹介

（８）道徳ノート（キャリアノート）

①道徳（キャリア）ノート導入の趣旨

本校では、特別活動（学級活動、学校行事、児童会活動、クラブ活動）や道徳科の学習の学習、学級における学校生活の中で、児童本人の人格形成につながる経験・体験について、キャリア教育の観点及び道徳教育の観点から文章記述で自己の気付きや考えを書き残すノート作成を学校として取り組んでいる。

②ノートの構成・内容・規格

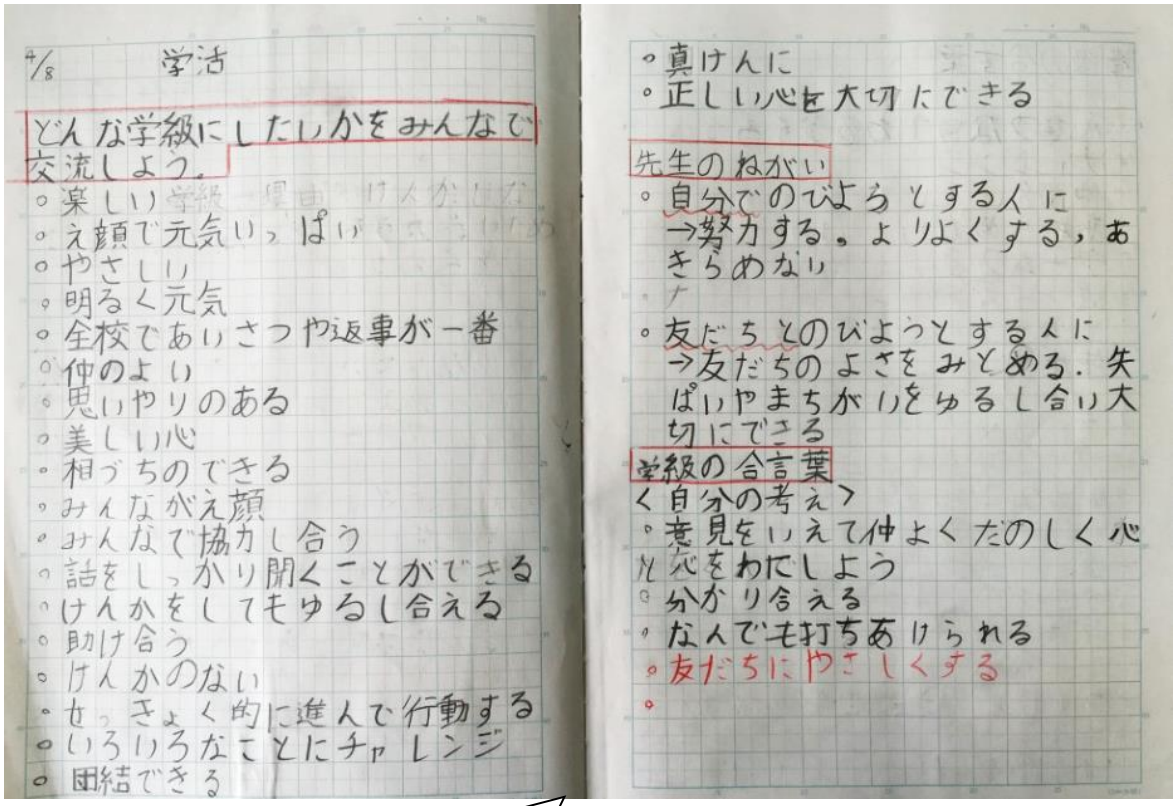
□全学年がノートを使用する。「学期の目標と振り返り」プリント等、ノート作成の趣旨に合致するプリント類を綴じ込むようにする。
□ノートに記入する機会・内容としては、次のようなものが想定される。

学級活動	・学期の個人目標下書き　・学期の振り返り　・学級の成長や課題 ・係活動の計画下書き　・学級会の準備と振り返り ・「適応及び健康・安全」領域での学習記録　等
学校行事	・行事の個人目標及び振り返り　・行事における取組に関する記録 ・行事に関する学年・学級での取組に関するアイディア　等
児童会活動	・集会活動（含むニコニコ集会）に臨む意欲や振り返り、気付き ・委員会活動に臨む決意や振り返り（事前の準備として） ・委員会活動での話合い記録　・委員会活動取組のアイディア　等
クラブ活動	・クラブ活動の個人目標及び振り返り　・クラブ活動に関するメモ 等
道徳科の学習	・内面化段階における活用　・意欲化段階における活用 ・授業後、家庭での記入（「私たちの道徳」の活用等）
その他	・学年としての日記指導　等

□３年生以上は、１０mm マス十字リーダー入りで統一。１・２年生は、１５マス（こくご）を使用。（学級の実態に応じたノートを使用する。）

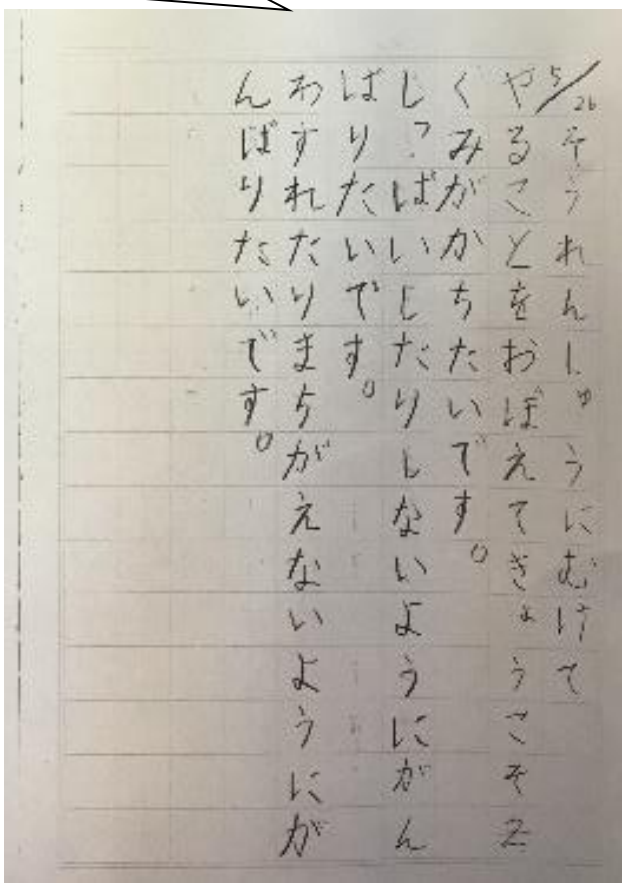
③道徳（キャリア）ノートの実際

Ａ　特別活動等との関連

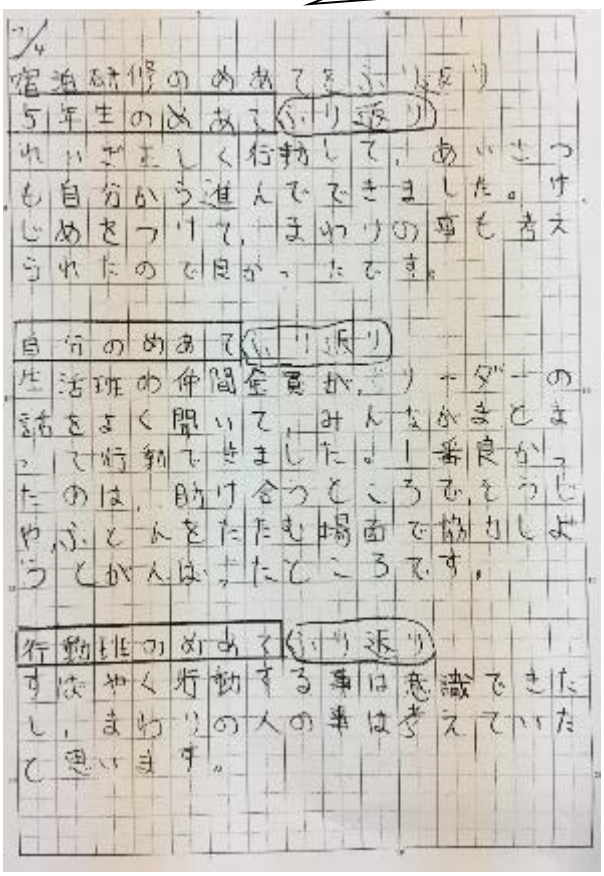


4月「学級活動」4年~どのような学級にしたいか交流しよう~

5月「学級活動」2年～運動会の練習を振り返って～

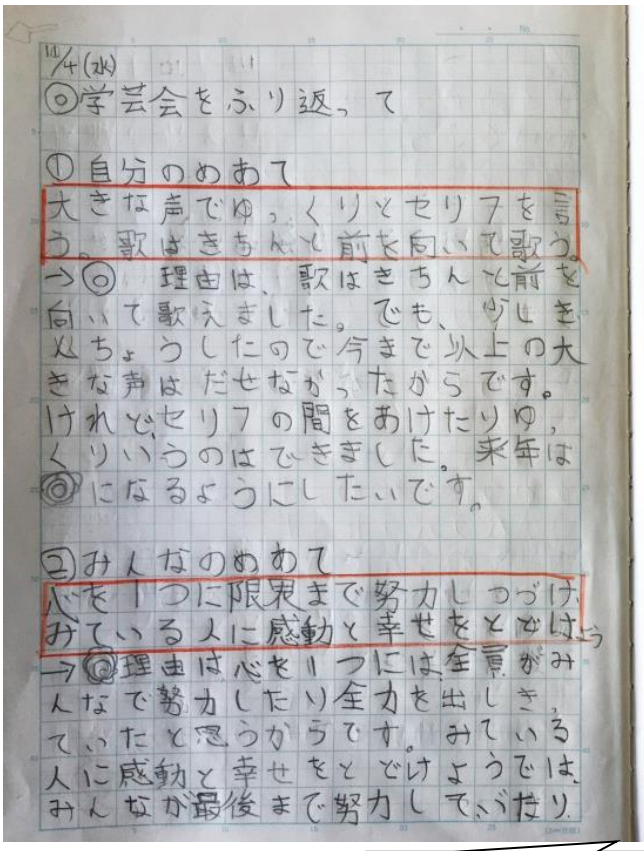

5/26
そうれんしゅうにむけて
やることをおぼえてきょうこそ
くみがかちたいです。
しっぱいしたりしないようにがん
ばりたいです。
わすれたりまちがえないようにが
んばりたいです。

7月「学級活動」5年～宿泊研修のめあてを振り返って～


7/4
宿泊研修のめあてをふり返り
5年生のめあてふり返り
れいぎよしく行動して、あいさつも自分から進んでできました。けじめをつけて、まわりの事も考えられたので良かったです。

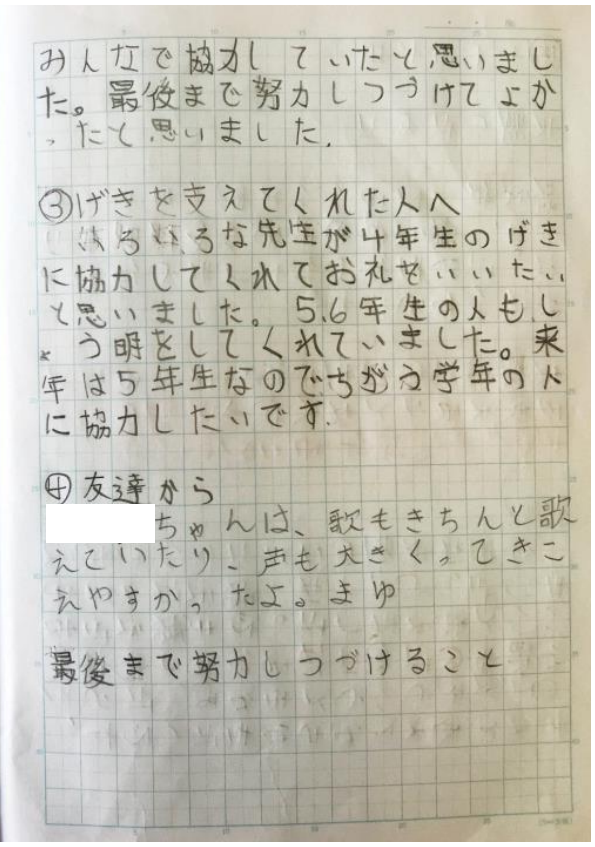
自分のめあてふり返り
生活班の仲間全員が、リーダーの話をよく聞いて、みんながまとまって行動できました。1番良かったのは、助け合うところで、そうじやふとんをたたむ場面で協力しようとがんばったところです。

行動班のめあてふり返り
すばやく行動する事は意識できたし、まわりの人の事は考えていたと思います。


10/4(水)
◎学芸会をふり返って

①自分のめあて
大きな声でゆっくりとセリフを言う。歌はきちんと前を向いて歌う。
→◎ 理由は、歌はきちんと前を向いて歌えました。でも、少しき必ちょうしたので今まで以上の大きな声はだせなかったからです。けれど、セリフの間をあけたりゆっくりいうのはできました。来年は◎になるようにしたいです。

②みんなのめあて
心を1つに限界まで努力しつづけ、みている人に感動と幸せをとどけよう
→◎理由は心を1つには全員がみんなで努力したり全力を出しきっていたと思うからです。みている人に感動と幸せをとどけようでは、みんなが最後まで努力してがたり


みんなで協力していたと思いました。最後まで努力しつづけてよかったと思いました。

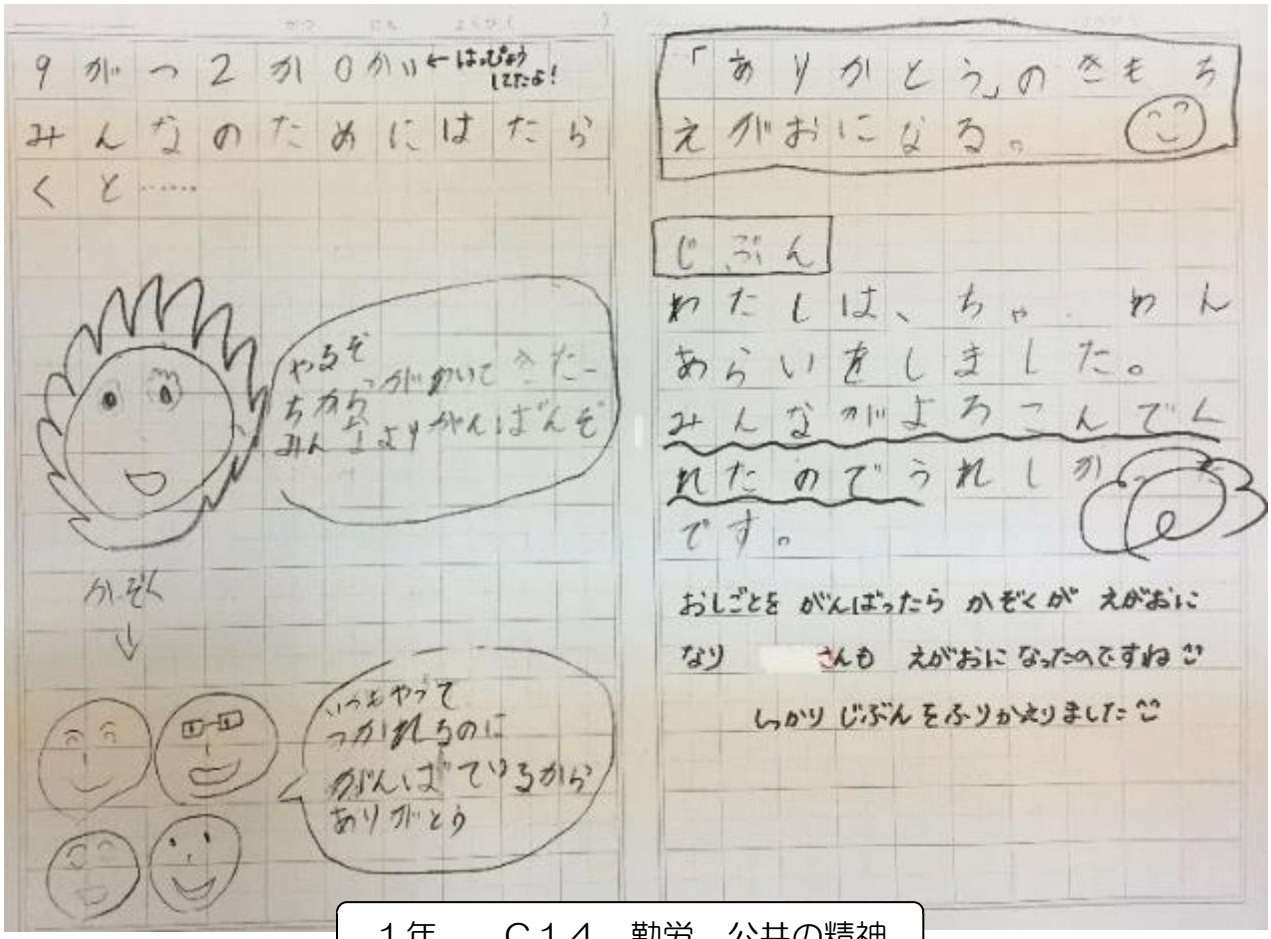
③げきを支えてくれた人へ
いろいろな先生が4年生のげきに協力してくれてお礼をいいたいと思いました。5.6年生の人もしょう明をしてくれていました。来年は5年生なのでちがう学年の人に協力したいです。

④友達から
[redacted]ちゃんは、歌もきちんと歌えていたり、声も大きくってきこえやすかったよ。まゆ

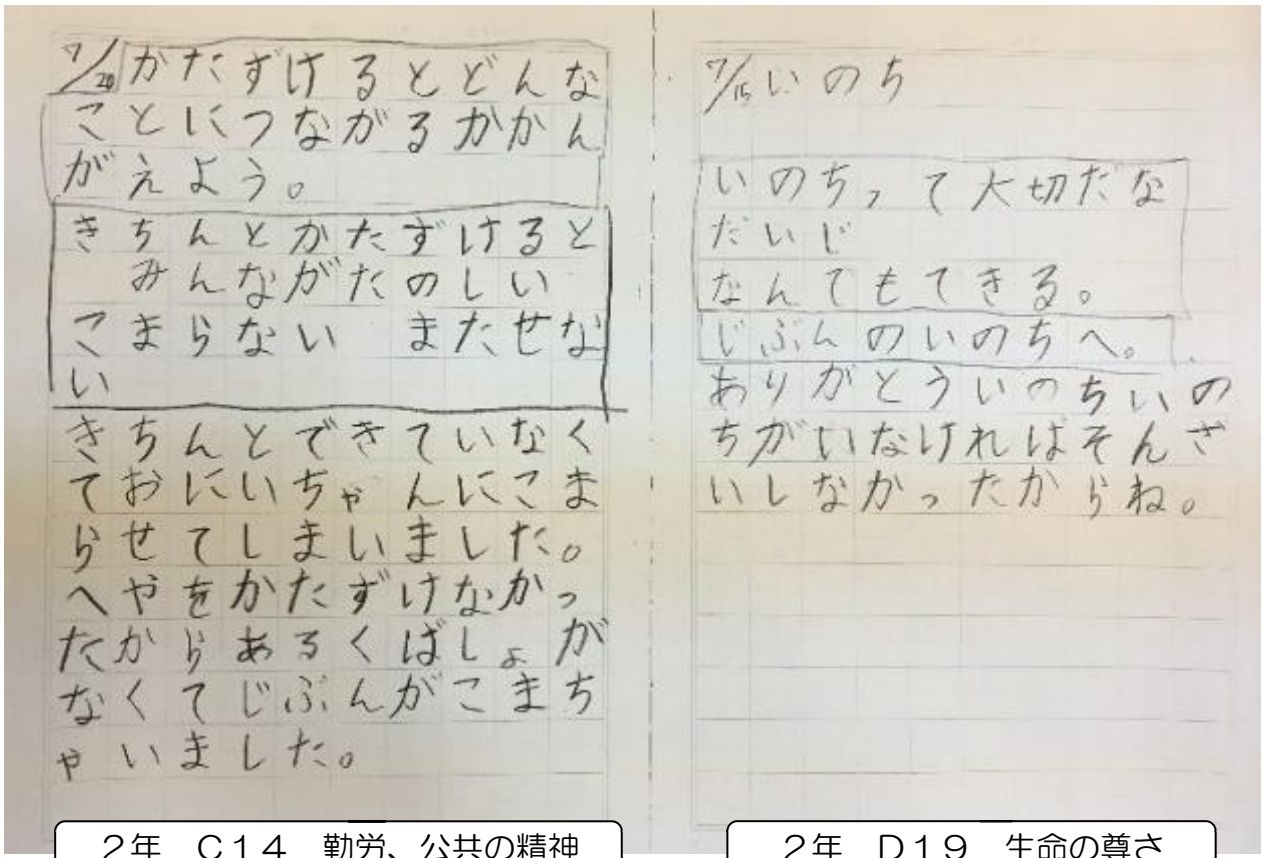
最後まで努力しつづけること

10月「学級活動」4年～学芸会を振り返って～

B　道徳科の学習（道徳ノート）

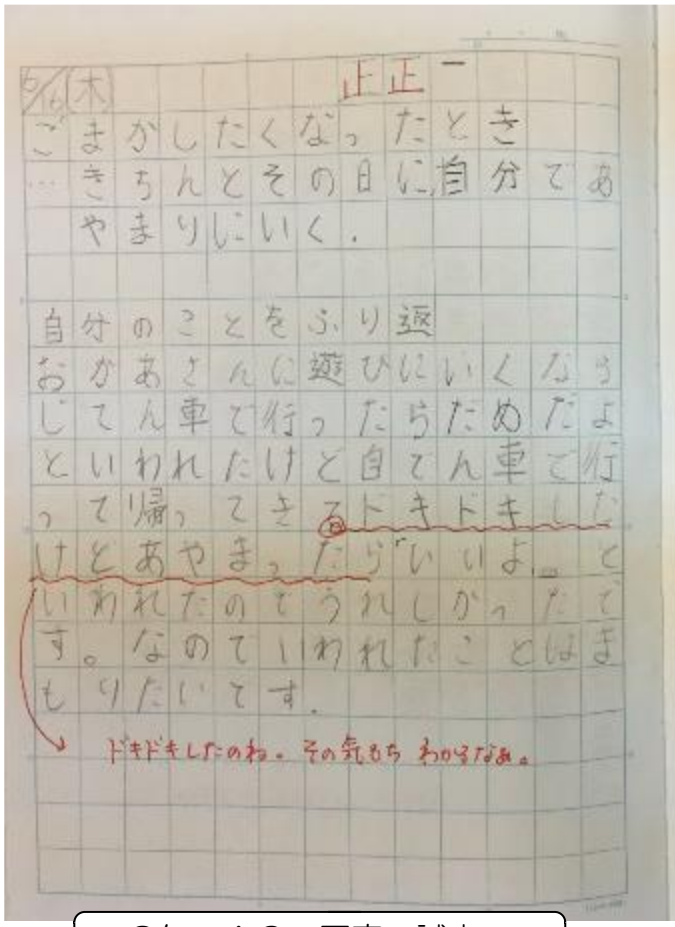


１年　　Ｃ１４　勤労、公共の精神



２年　Ｃ１４　勤労、公共の精神

２年　Ｄ１９　生命の尊さ



正正一

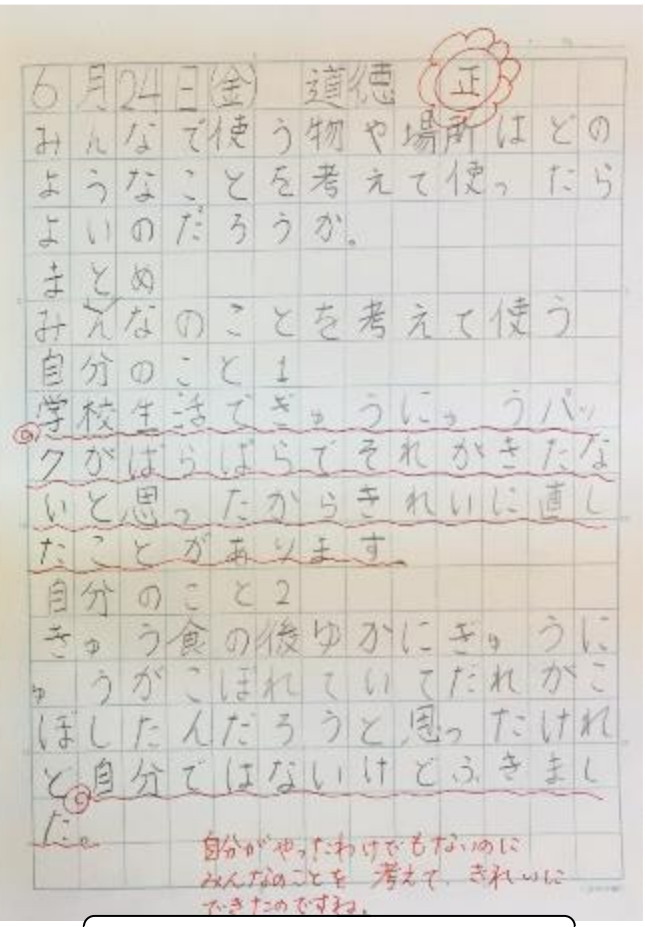
5/6(木)

ごまかしたくなったとき
…きちんとその日に自分であやまりにいく。

自分のことをふり返
おかあさんに遊びにいくなら
じてん車で行ったらだめだよ
といわれたけど自てん車で行
って帰ってきてドキドキした
けどあやまったらいいよ。と
いわれたのでうれしかったで
す。なのでいわれたことはま
もりたいです。

ドキドキしたのね。その気もち わかるなあ。

3年　A2　正直・誠実



6月24日(金)　道徳　正

みんなで使う物や場所はどのようなことを考えて使ったらよいのだろうか。

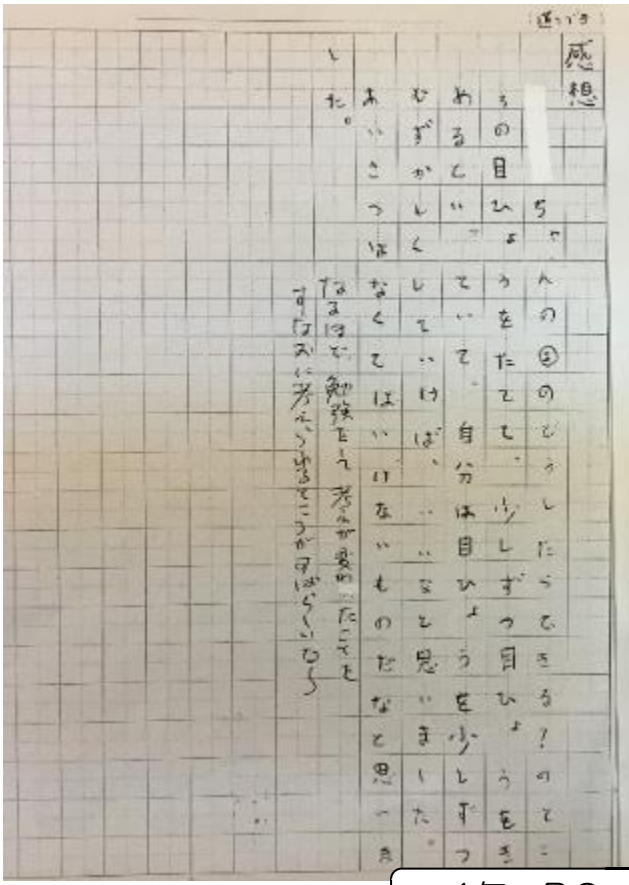
まとめ
みんなのことを考えて使う

自分のこと1
学校生活でさっうにっうバックがばらばらでそれがきたないと思ったからきれいに直したことがあります。

自分のこと2
きゅう食の後ゆかにぎゅうにゅうがこぼれていてだれがこぼしたんだろうと思ったけれど自分ではないけどふきました。

自分がやったわけでもないのにみんなのことを考えて、きれいにできたのですね。

3年　C12　規則の尊重



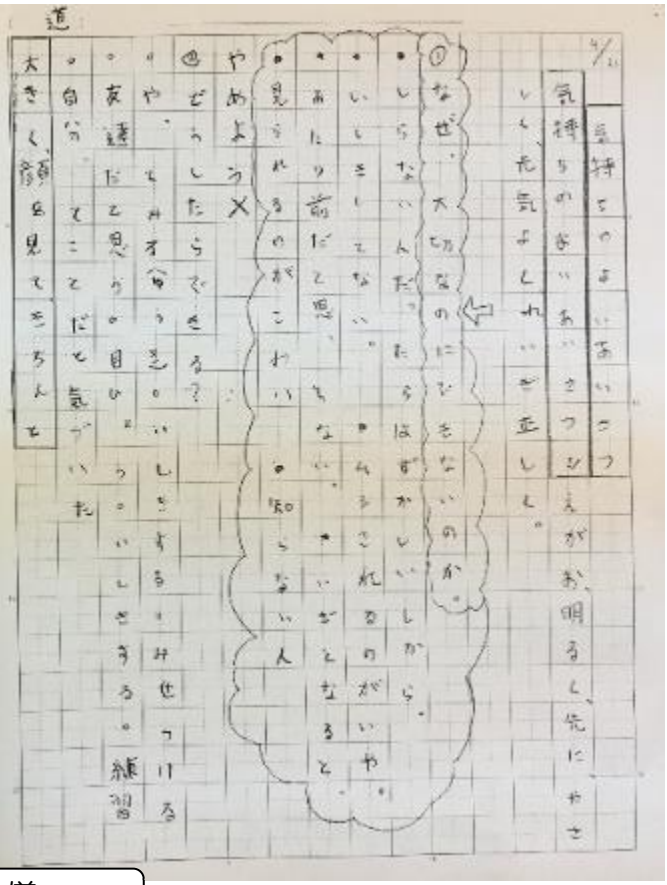
感想

ちゃんの④のようにしたらできる！のてこの日ひょうをたてて、自分は目ひょうを少しずつ目ひょうをあるていけば、むずかしくていけばいけなくてはいけないものだなと思いました。

あいこつはなくてはいけないものだなと思いました。

なるほど勉強をして考えが変わったことをすばらしいと思うことがすばらしいね。

4年　B9　礼儀



道

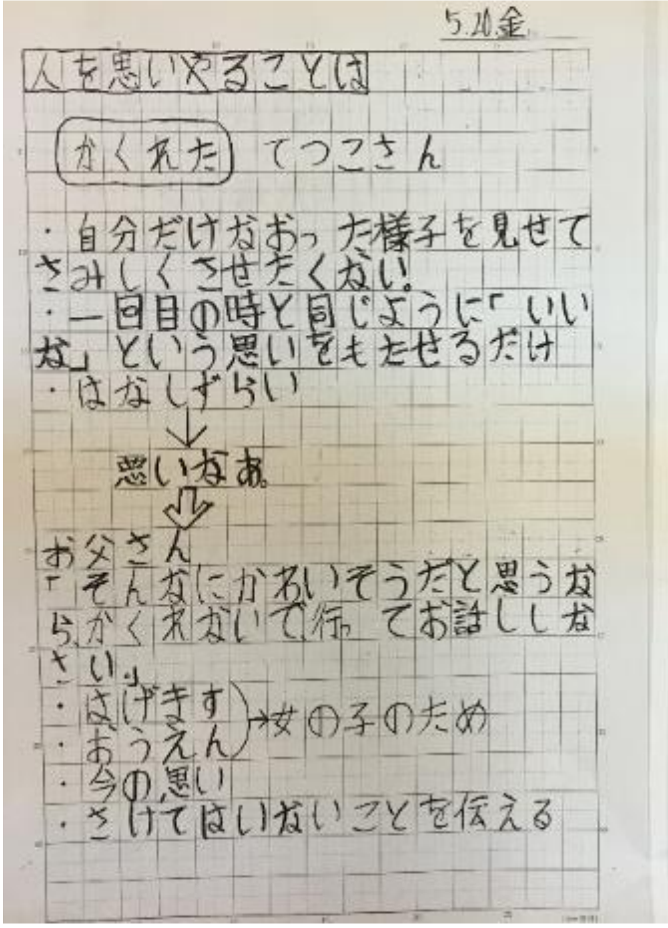
太きく笑顔を見てきちんと

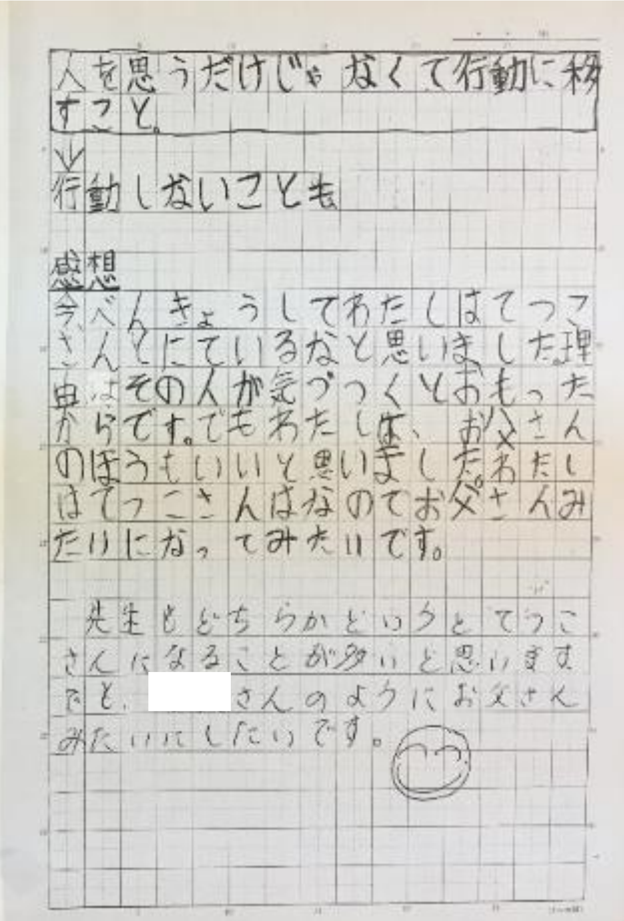
自分。友達だと思うの目ひょうをてこだと気がいた。

やめよう×
どうしたらできる？
やってみよう。いしきする。みせつける。練習。

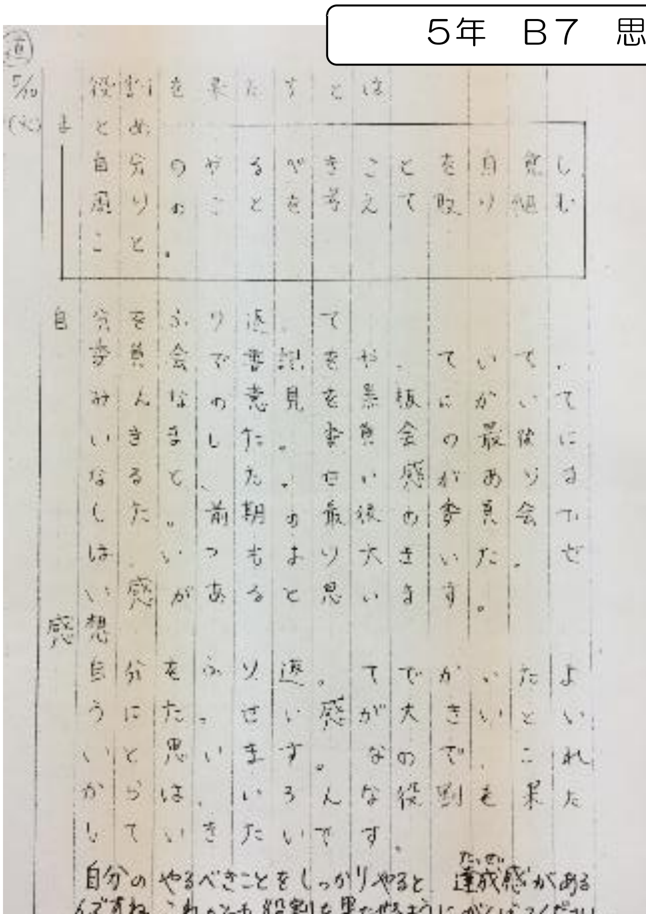
④なぜ、大切なのにできないのか。
・いらないんだ。
・いいきっかけがない。
・あたり前だと思う。
・みられるのがこわい。
・知らない人。
・たるはずかしいから。
・みられるのがいや。
・いざとなると。

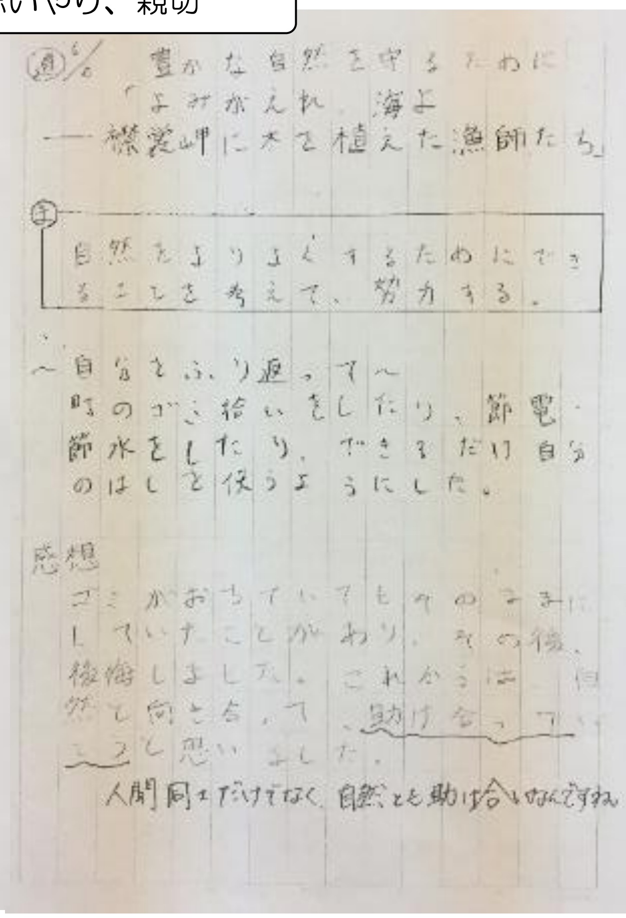
気持ちのよいあいさつ
えがお、明るく、先にやさしく元気よくれい儀正しく。


5.20金
人を思いやることは
かくれた てつこさん
・自分だけなおった様子を見せてさみしくさせたくない。
・一回目の時と同じように「いいな」という思いをもたせるだけ
・はなしずらい
悪いなあ。
お父さん
「そんなにかわいそうだと思うなら、かくれないで行ってお話ししなさい。」
・はげます
・おうえん
→女の子のため
・今の思い
・さけてはいないことを伝える


人を思うだけじゃなくて行動に移すこと。
行動しないことも
感想
今回べんきょうしてわたしはてつこさんとにているなと思いました。理由はその人が気づくとおもったからです。でもわたしは、お父さんのほうもいいと思いました。わたしはてつこさんなのでお父さんみたいになってみたいです。
先生もどちらかというとてつこさんになることが多いと思います。でも、[redacted]さんのようにお父さんみたいにしたいです。

5年　B7　思いやり、親切


5/10
役割を果たすとは
まとめ
自分のやるべきことを自覚し
役割のことを考えて取り組む
こと。
感想
自分のやるべきことをしっかりやると達成感があるんですね。これからも役割を果たせるようにがんばってください。


6/6 豊かな自然を守るために
「よみがえれ、海よ
―襟裳岬に木を植えた漁師たち」
自然をよりよくするためにできることを考えて、努力する。
〜自分をふり返って〜
時のごみ拾いをしたり、節電・節水をしたり、できるだけ自分のはしを使うようにした。
感想
ゴミがおちていてもそのままにしていたことがあり、その後、後悔しました。これからは自然と向き合って、助け合っていこうと思いました。
人間同士だけでなく、自然とも助け合いなんですね

道徳科における評価について

１「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」と本校の取組との関連から

今回の「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編（Ｈ２９年６月)」では、「第５章　道徳科の評価」において、評価の在り方や方向性、発達障害等のある児童生徒への必要な配慮などの内容がより具体的に示された。

そこで、本校では、今後の方向性について明らかにし、来年度の「特別の教科　道徳」の全面実施に向けて次のように取り組んでいる。

（１）評価とは～学習指導要領から

「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編（Ｈ２９年６月)」では、評価について次のように示されている。

道徳教育の評価について

教師が児童一人一人の人間的な成長を見守り、児童自身の自己のよりよい 生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気付ける働きをもつようにすること

道徳科における評価

授業における指導のねらいとの関わりにおいて、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様々な方法で捉えて、個々の児童の成長を促すとともに、それによって自らの指導を評価し、改善に努めることが大切

（P105～106 より一部抜粋）

道徳科に関する評価の基本的な考え方について

- 道徳性の諸様相を分節し、学習状況を分析的に捉える観点別評価を通じて見取ろうとすることは道徳科の評価としては妥当ではない
- 個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とする
- 他の児童との比較による評価ではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行う
- 道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある
- 道徳科の目標に明記された学習活動に注目し、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが重要
- 児童が「自己を見つめ」「多面的・多角的に」考えることのできる学習活動において、「道徳的諸価値の理解」と「自己の生き方についての考え」を、相互に関連付けることによって、深い理解、深い考えとなっていく

（P107～106 より　一部抜粋）

評価とは、児童の成長と教師の指導の改善と充実を図るものである。そして、「考え、議論する道徳の授業」を展開する中で、「自己を見つめる」、「多面的・多角的に考える」とい

う学習活動を重視していく必要がある。その中で児童が、「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」、「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」といった点に着目しながら評価することや、重要なことは質の高い多様な指導方法へ授業の改善と積み重ねをしっかり行っていくことが求められる。

（２）これまでの東五条の取組と求められる道徳科の評価との関連

「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編（Ｈ２９年６月）」では、「評価の基本的な考え方」ついて次のように示されている。

個人内評価として見取り、記述により表現することの基本的な考え方

児童が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかという点について、

例・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていること
・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていること
・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていること

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうかという点について、

例・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目する
・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目する
・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めているか
・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているかという視点も考えられる

年間や学期を通じて、当初は感想文や質問紙に、感想をそのまま書いただけであった児童が、学習を重ねていく中で、読み物教材の登場人物に共感したり、自分なりに考えを深めた内容を書くようになったりすることや、既習の内容と関連付けて考えている場面に着目するなど、一単位時間の授業だけでなく、 児童が一定の期間を経て、多面的・多角的な見方へと発展していたり、道徳的価値の理解が深まったりしていることを見取るという視点もある。

（Ｐ109　一部抜粋）

これらの記述と本校の取組（東五条スタイルや研究）と関連させて考えると、現在取り組んでいることが、今後求められていく評価につながり、「指導と評価の一体化を図る」ものと言える。

〇本校の学習指導過程（東五条スタイル）の中は…

道徳的価値の追求・把握の段階において

・読み物教材の登場人物へ自我関与させて、道徳的価値の理解を深めている
・友達との話合いの中で、自分と異なる立場、感じ方、考え方を受け入れようとしている
・「自分だったら」と考え話し合う中で、道徳的価値の理解を深めている
・道徳的価値の実現の難しさ（人間理解）を自分事として捉えようとしている

道徳的価値の内面化段階において

・今の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している　　など

〇年間や学期を通じて継続的に取り組んでいることとして…

・道徳ノートの記述の仕方の変化（内面化段階、意欲化段階～感想）
・アンケート（４月～学年末のどのように変化しているか）

（３）今後に向けてさらに取り組んでいること

本校では、道徳科の評価に関わり次の点について共通理解しながら進めている。

①授業のねらいを明確にする
②多様な指導方法を取り入れ、工夫する～「多面的・多角的に」、「自分との関わりの中で」（児童の学習活動）をキーワードに授業づくりを行う
③道徳ノートを継続して取り組む（毎時間の積み重ねを大切にする、児童の成長を意識する、「多面的・多角的」な考えに発展しているか、「自分との関わり」の中で価値理解を深めているかという記述に着目する　など）
④児童自身の自己評価（感想等を書く活動）を取り入れる（１単位時間ごと、学期ごと）
⑤年間指導計画や別葉を活用しながら、日常的に見取ったことを記録し、関連付ける

以上のように、様々な面から総合的に児童の成長を見取っていくことが重要であるが、まずは、「多面的・多角的（友達との学びの中で、様々な立場で考える、様々な価値で考える…など）」「自分との関わりで考える(自分だったら、自分も～ということがあった…など)」をキーワードに授業を改善していくことが重要である。

【共通で取り組んでいる自己評価シート】

★低学年用（1～3年生）

どうとくの学しゅうをふりかえろう　　月　日

◎よくできた　〇できた　△もうすこし

①自分の考えをはっぴょうすることができた。	
②友だちの考えをしっかりと聞くことができた。	
③あたらしく気づいたことや　あらためてわかったことがあった。	
④自分について　ふりかえることができた。	

★高学年用（4～6年生）

道徳の学習をふり返ろう　　月　日

◎よくできた　〇できた　△もうすこし

①自分の考えを発表することができた。	
②自分の考えと比べながら　友達の考えをしっかりと聞くことができた。	
③新しく発見したことや　考えが深まったことがあった。	
④学んだことと　生活（自分）とのつながりについて　考えることができた。	

★感想を書かせる際には

・「今日の道徳の中で一番考えたことはどのようなことですか。」

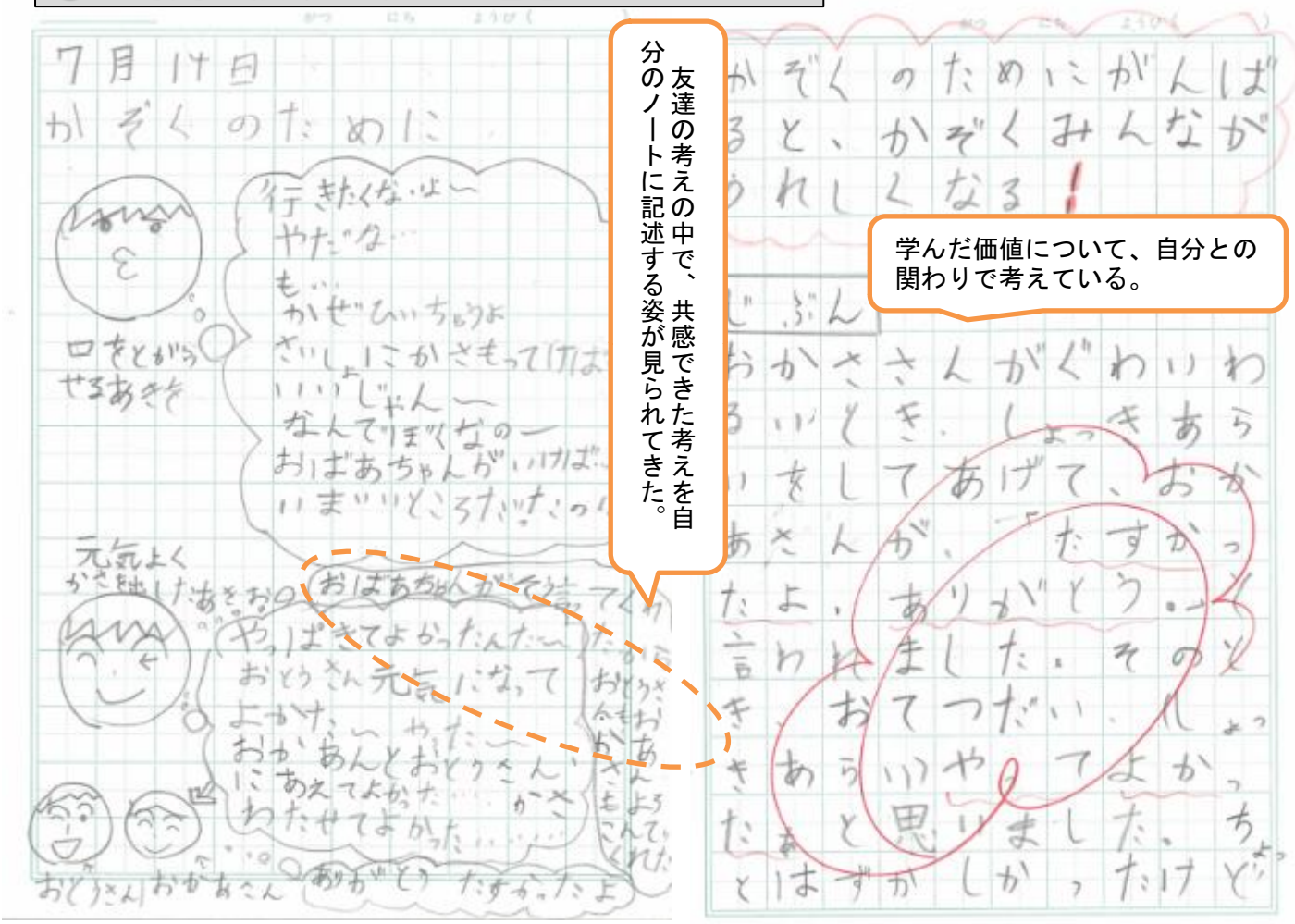
・「改めて分かったことや考えたことはどのようなことですか」

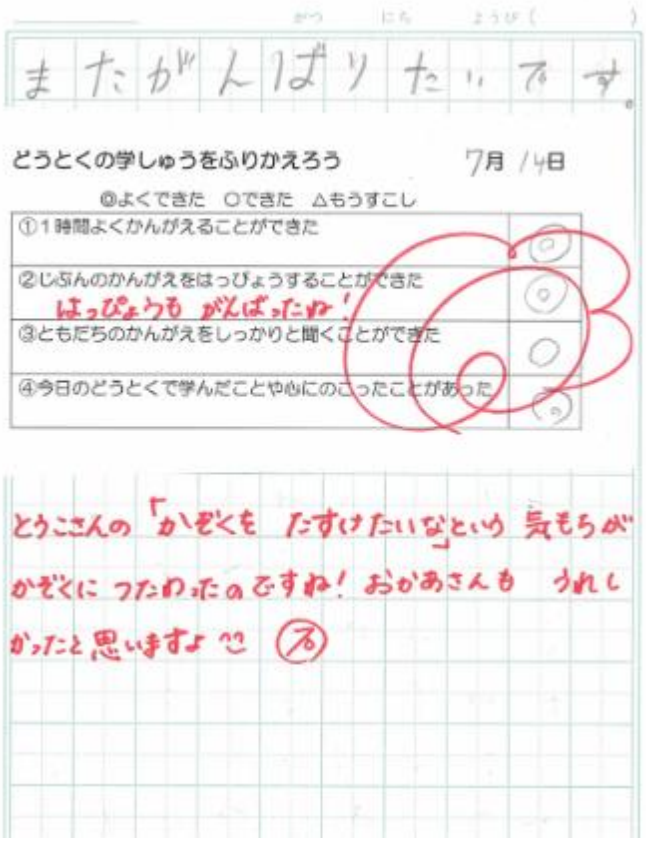
・「友達の考えの中で心に残ったことはどのようなことですか。」

など視点を示す。

（４）評価方法の具体例

①１時間の授業の中で～道徳ノートから





毎時間、簡単にできる自己評価を取り入れて、自分の学びを振り返ることができるようにする。児童の自己評価は、教師の授業改善にもつながっていく。

自己評価の観点　【例】

- 今日の学習の中で新しく発見したり、考えが深まったりした。
- 友達の考えで参考になったことがある。
- 自分の問題として考えることができた。

など

感想を書かせるときに

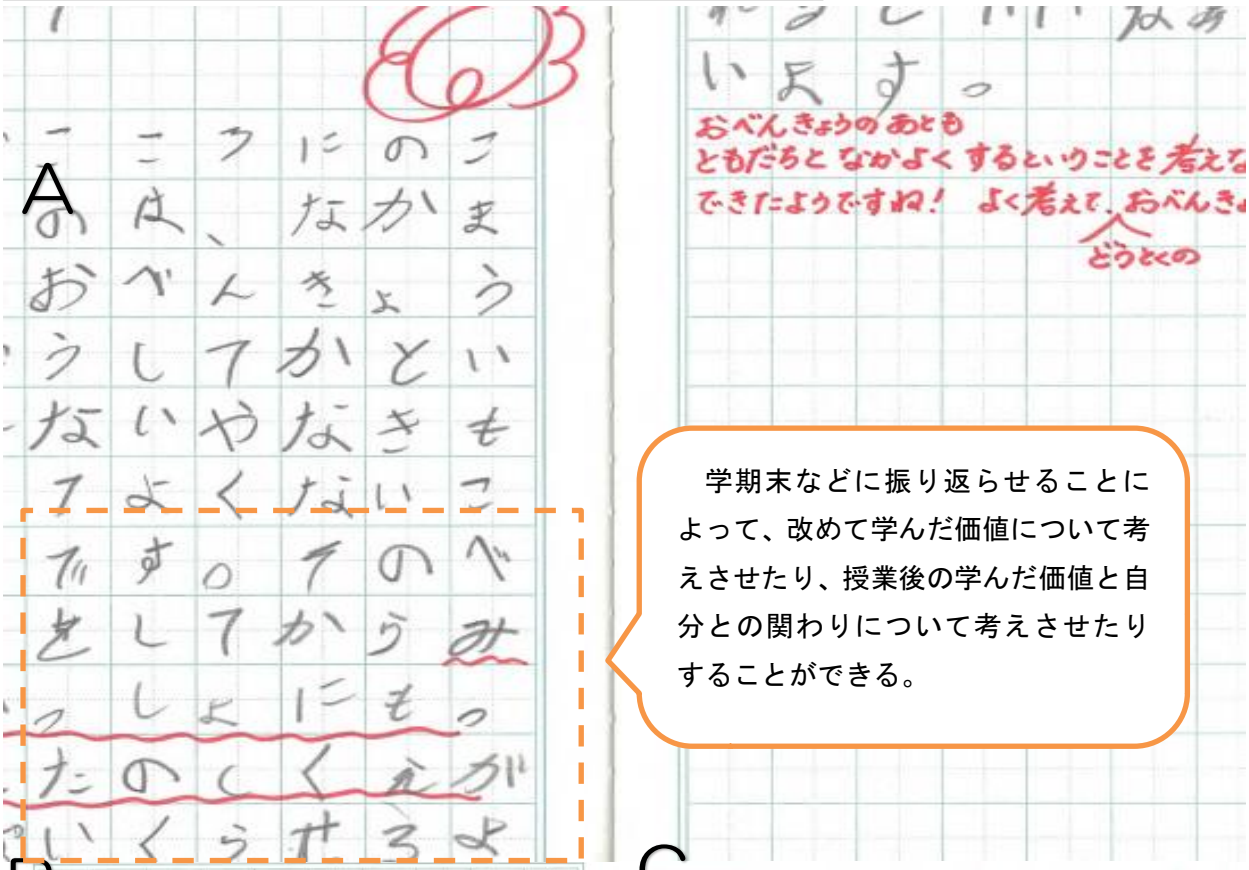
- 「今日の道徳の中で一番考えたことはどのようなことですか。」
- 「改めて分かったことや考えたことはどのようなことですか」
- 「友達の考えの中で心に残ったことはどのようなことですか。」

など

※多面的・多角的
（友達との学びの中で、様々な立場で考える、様々な価値で考える…など）
自分との関わりで（自分だったら、自分も～ということがあった…など）
※学年の発達段階によって工夫が必要

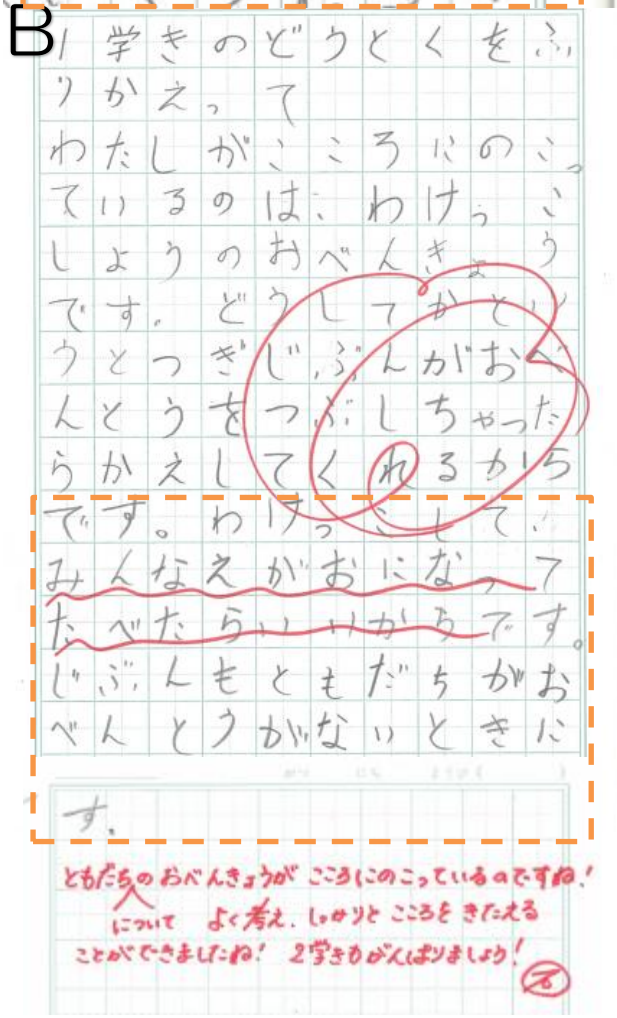
②学期ごとの振り返りを通して

A

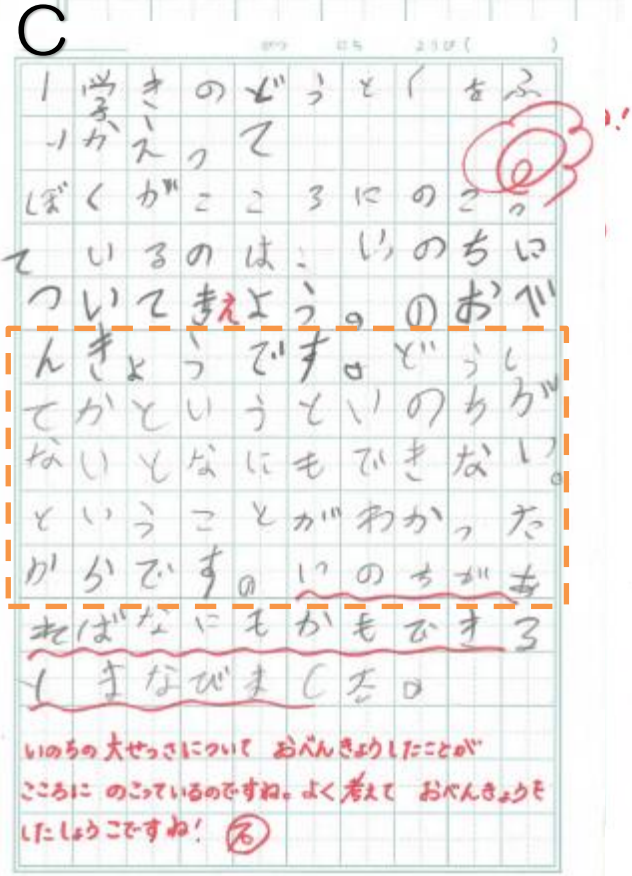


学期末などに振り返らせることによって、改めて学んだ価値について考えさせたり、授業後の学んだ価値と自分との関わりについて考えさせたりすることができる。

B

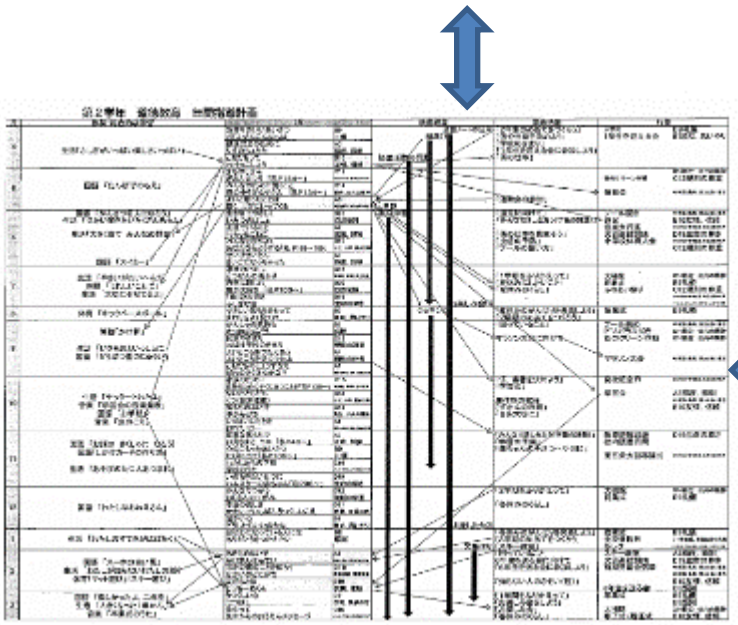
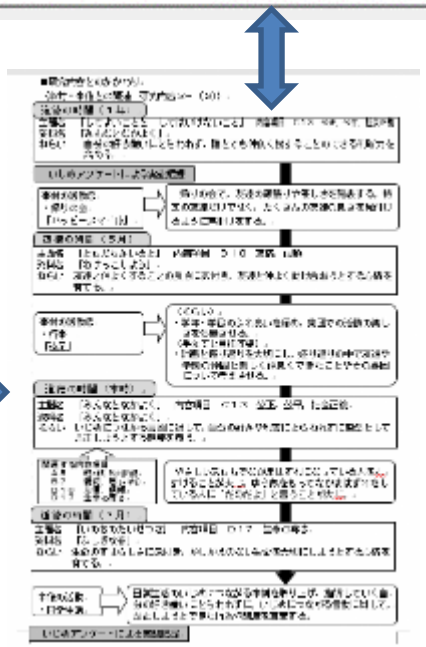


C



③道徳アンケートの変容を見取って

学年末の変容を見取る

④年間指導計画や別葉を活用し児童の日常の記録を積み重ねる

日付	カテゴリー	記入者	コメント
7月6日（木）	学級活動	○○　○○	給食をこぼしたときに進んでぞうきんでふいてくれた
6月2日（金）	学級活動	○○　○○	・新聞係～同じ係の子と協力して記事の内容を話合い，工夫しながら活動している。
5月26日（金）	学級活動	○○　○○	・大きな声で日直に取り組む。仕事もしっかりと頑張る。